



S.Suzuki

THE DAILY HAI QUEEN CUP

第60回 デイリー杯 クイーンカップ (GⅢ)

1着 賞 38,000,000円 2着 15,000,000円 3着 9,500,000円 4着 5,700,000円 5着 3,800,000円
付加賞 490,000円 140,000円 70,000円



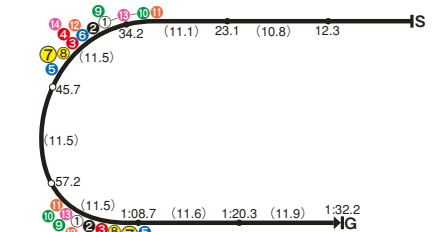
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.2.15 東京 晴・良 芝1600m (国際) (特選)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り 通過順位 (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	エンブroidアリー	牝3	55	C.ルメール	1:32.2	2-2	34.9	482(+8)	4.9③	森 一誠(美浦)	108
2	⑥	マビュース	牝3	55	田辺裕信	2½	7-4	34.8	494(±0)	23.4⑧	和田勇介(美浦)	103
3	⑬	エストッペンダ	牝3	55	三浦皇成	1½	12-11	34.3	442(±0)	16.2⑥	高柳瑞樹(美浦)	100
4	⑫	コートアリシアン	牝3	55	坂井瑠星	1¾	7-9	34.8	440(-2)	6.9④	伊藤大士(美浦)	97
5	②	スライピングロード	牝3	55	菅原明良	クビ	9-7	35.1	454(±0)	35.1⑨	福永祐一(栗東)	
6	⑪	マディソンガール	牝3	55	川田将雅	½	14-13	34.6	442(-6)	2.6①	中内田充正(栗東)	
7	⑤	ロートホルン	牝3	55	横山武史	クビ	1-1	36.1	462(-4)	12.7⑤	加藤征弘(美浦)	
8	⑧	ティラトーレ	牝3	55	木幡巧也	アタマ	3-3	35.8	486(-2)	19.2⑦	牧 光二(美浦)	
9	④	ショウナンザナドゥ	牝3	55	池添謙一	クビ	4-4	35.6	432(-6)	4.8②	松下武士(栗東)	
10	⑩	ロンドボス	牝3	55	戸崎圭太	¾	13-13	35.2	446(-2)	39.7⑩	藤原英昭(栗東)	
11	①	ヴィヴァーリス	牝3	55	R.キング	¾	10-9	35.9	392(-8)	97.1⑪	尾関知人(美浦)	
12	⑨	レイユール	牝3	55	嶋田純次	3	10-11	36.1	412(-4)	45.4⑫	手塚貴久(美浦)	
13	⑭	ギフテッド	牝3	55	岩田康誠	2½	4-7	36.9	452(-6)	233.5⑬	武井 亮(美浦)	
14	③	ミラダカリエンテ	牝3	55	石川裕紀人	½	4-4	37.3	474(+2)	257.0⑭	相沢 郁(美浦)	

単勝⑦490円(3¼%) 複勝⑦220円(3¼%) ⑥520円(8¼%) ⑬350円(5¼%) 枠連④-⑤1,560円(7¼%)
馬連⑥-⑦5,650円(23¼%) ワイド⑥-⑦1,730円(22¼%) ⑦-⑬1,460円(18¼%) ⑥-⑬2,810円(36¼%)
馬単⑦-⑥8,720円(31¼%) 3連複⑥-⑦-⑬23,170円(77¼%) 3連単⑦-⑥-⑬103,960円(331¼%)



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m
34.2 - 45.7 - 57.2 46.5 - 35.0

アラカルト

- ・C.ルメール騎手はアドマイヤミヤビで制した17年に続くクイーンC4勝目。JRA重賞は通算160勝目
- ・森一誠調教師はクイーンC初勝利。JRA重賞は通算2勝目
- ・アドマイヤマーズ産駒はJRA重賞初勝利
- ・勝ちタイム1:32.2は16年にメジャーエンブレムが記録した1:32.5を0秒3更新するレースレコード

エンブロイダリー Embroidery

牝 鹿毛 2022.2.1生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南シルクレーシング 美浦・森一誠厩舎
馬名意味・刺繍。母名より連想

アグサンIRE系 F16-c

アドマイヤマーズ 栗毛 2016	ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA スカーレットブーケ
	ヴィアメディチIRE 栗毛 2007	Medicean Via Milano
ロッテンマイヤー 鹿毛 2013	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy Blue Avenue
	アーデルハイト 鹿毛 2007	アグネスタキオン ビワハイジ

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

大谷渡 厩舎長（ノーザンファーム早来）

今後がさらに楽しみになりました

育成厩舎に来た頃から馬体や動きには安定感があり、調教も順調に進められたこともあって、早期デビューが叶いました。牧場時代の印象ではキレる脚を使うイメージはなかったので、初勝利がコースレコードだったことには驚きました。クイーンCはメンバー的にも試金石だと思っていましたが、レース内容や勝ち時計から、今後の活躍がさらに楽しみになりました。

Y.Hamano



デビュー2戦目、新潟・芝1800mの未勝利戦をレコードで圧勝（7馬身差）し、脚光を浴びた本馬。続くサフラン賞はスタートで後手を踏んだのが響き、強襲及ばずの5着に敗れたものの、東京・芝1400mの1勝クラス戦を鮮やかに差し切って軌道を修正。この日は従来のレースレコードを0秒3塗り替え、重賞初制覇を果たした。非凡なスピードと自在な脚質を併せ持つ新星が出現。百花繚乱の様相を呈してきた桜花賞戦線だ。

父アドマイヤマーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香13戦6勝（香港マイル^{G1}、朝日杯フューチュリティS^{G1}、NHKマイルC^{G1}、デシリール杯2歳S^{G2}、中京2歳S^{G2}、共同通信杯^{G3}2着、香港マイル^{G1}3着、マイルチャンピオンシップ^{G1}3着、スワンS^{G2}3着、皐月賞^{G1}4着）、最優秀2歳牡馬、21年から日、豪で供用〔代表産駒〕エンブロイダリー（本馬）、ナムラクララ（紅梅S・L）

母ロッテンマイヤー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央14戦3勝（忘れな草賞^{G3}、クイーンC^{G3}3着）

ゼーゼマン（21 牝父エビファネイア）中央2戦1勝

エンブロイダリー 本馬（22 牝父アドマイヤマーズ）中央5戦3勝（クイーンC^{G3}）獲得総賞金55,760,000円

パートラガッツ（23 牝父リアルスティール）

（24 牝父クリソベリル）

祖母アーデルハイト

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ラダームブランシェ（12 牝父チチカステナゴFR）中央1勝、オードリーバローズ 〆（節分S）の母

ロッテンマイヤー（13 前出）

アーデルワイゼ（15 牝父エイシンフラッシュ）中央2勝（もみじS^{G2}2着）

マイエンフェルト（16 牝父ハービンジャーGB）中央3勝（HTB賞）

エーデルブルーム（19 牝父ハービンジャーGB）中央4勝（ダイワスカーレットC、北海H、松浜特別、マーメイドS^{G3}2着）

アーデルリーベ（22 牝父ヘニーヒューズUSA）中央1勝、地方0勝（エーデルワイズ賞^{J3}3着） 〆

曾祖母ビワハイジ

北海道新栄町 早田牧場新冠支場生産 中央4勝（阪神3歳牝馬S^{G1}、京都牝馬特別^{G3}、札幌3歳S^{G3}、チューリップ賞^{G3}2着）、最優秀2歳牝馬、15年用途変更、フエナビスタ（ジャパンC^{G1}、天皇賞（秋）^{G1}、オークス^{J1}、桜花賞^{J1}、ヴィクトリアマイル^{G1}、阪神ジュベナイルフィリーズ^{J1}）、ジョウドヴィーヴル（阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}）、アドマイヤオーラ（京都記念^{G2}、弥生賞^{J2}、シンザン記念^{J3}、日本ダービー^{J1}3着）、サングレアル（フローラS^{G3}）、アドマイヤジャパン（京成杯^{G3}、菊花賞^{G1}2着、弥生賞^{G2}2着、皐月賞^{G1}3着）、トセンレーヴ（エプソムC^{G3}）の母、メルキオル 〆（ブルーバードC^{J3}）、タンタラス（京都牝馬S^{G3}3着）の祖母

百花繚乱の桜花賞戦線に新星出現

春が近づくにつれ、混戦ムードが強まってきた桜花賞戦線にまた1頭、新たな女王候補が名乗りをあげた。半姉リパティアイランド譲りの鋭い決め手を見せつけ、新馬戦を鮮やかに差し切ったマディソンガールが1番人気、アルテミスS3着、阪神ジュベナイルフィリーズの4着馬シヨウナンザナドゥが2番人気に支持されたクイーンCを制したのは、3番人気のエンブロイダリー。新種牡馬アドマイヤマーズの産駒が非凡なスピードをアピールし、桜花賞の中心勢力に急浮上した。

日も思い切りよく飛び出して先手を奪取。エンブロイダリーのC・ルメール騎手はこれを先に遣り、2番手で折り合いをつけてレースを運ぶ。前半600mの通過が34秒2と水準以上に速いラップが刻まれていくなか、シヨウナンザナドゥは好位勢の直後を追走。ゲートで立ち遅れたマディソンガールは最後方を進み、未脚勝負に構えた。終始、プレッシャーをかけられ、ペーシングを落とせなかったロートホルンは直線の坂下で失速。好対照に案な手応えをキープして4コーナーを回ったルメール騎手は坂の上りから追い出しにかり、たちまちリードを開く。4コーナーから早めに仕掛けられた赤松賞の勝ち馬マビュースが懸命に追いつたものの、その差は詰まらないままラスト100mも1秒台のラップでまとめたエンブロイダリーが余裕綽々と押し切った。

デビュー2戦目、新潟・芝1800mの未勝利戦をレコードで圧勝（7馬身差）し、脚光を浴びた本馬。続くサフラン賞はスタートで後手を踏んだのが響き、強襲及ばずの5着に敗れたものの、東京・芝1400mの1勝クラス戦を鮮やかに差し切って軌道を修正。この日は従来のレースレコードを0秒3塗り替え、重賞初制覇を果たした。非凡なスピードと自在な脚質を併せ持つ新星が出現。百花繚乱の様相を呈してきた桜花賞戦線だ。